



# 立沢里山

平成19年8月19日

## 里山新聞 第8号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮  
 問い合わせ先：事務担当  
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）  
 立沢里山ホームページ  
<http://www3.ocn.ne.jp/tatuzawa>

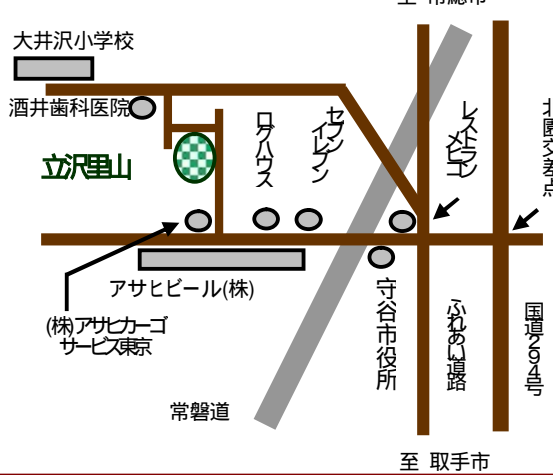
ボランティア募集  
あなたも一緒に楽しみましょう！

### ～目次～

- 1 第4回田植え体験
- 2 取水堰の改修と魚道設置
- 3 古代米の田植え
- 4 オトギリソウのお嫁入り
- 5 ホタル出現
- 6 北守谷夏祭りに参加



### 【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

[san-seino@hb.tp1.jp](mailto:san-seino@hb.tp1.jp)

清野



第一声は「キャー」「気持ち悪い」「助けて」の楽しそうな声が飛び交う中、ボランティアの支援で泥だらけになりながらも、2時間程で初体験の田植えに汗を流し、生徒も先生も充実し満足そうな笑顔でありました。

生徒代表の締めで田植え作業は終了し、実りの秋に稲刈りの再会を誓いました。

泥んこで「ありがとうございました！」と気持ちの良い挨拶をしながら各学校に戻って行きました。

（栗原信一 記）



そろって尻もち

## 2 取水堰の改修と魚道設置



今までの取水口は単なる土嚢積みのため、大雨の度に崩壊し水管理も大変なことから、木製ですが杭で固定し角落とし堰に改良しました。これで水位調整も楽にできます。

左右両岸への取水なので、取水口については今後更に改良を考えたいと思います。

堰を改良したついでに魚道も試作してみました。小魚用魚道ということでメダカやドジョウなど小さな魚の階段です。

けっしていい加減に製作したわけではありません。宇都宮大学農学部の水谷研究室が提案したものを学会論文を参考に設計しました。

独自に改良を加え、カスケードM型に堰板を取り替え可能に改造し、千鳥X型など魚の種類を考えて自由に変更が出来るようにしてみました。

魚の状況を観察しながら順次改良する予定です。

また、湛水池には日陰がないと魚が遊泳しにくいことから、法止め工と柳の植栽を併せて実施してみました。メダカの学校を観察する良いスポットになると思います。

もっかのところ、興味を持って集まるのは小魚より、散歩などで通りかかる人間のほうが多いようです。（S野 記）

## 1 第4回立沢里山、小学生合同田植え

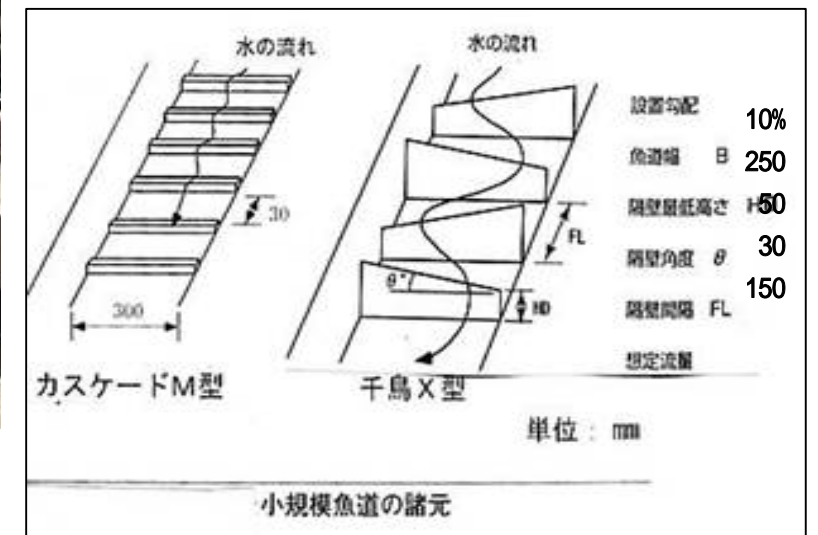
### 実習実施

5月22日（火）五月晴れ、絶好の田植え日和の中、今年で第4回目を迎えた実習日には、我々里山の会のボランティアは平日にもかかわらず15名程が参加し、田植え支援の為に事前の準備を万端に小学生を待ち受けました。

北守谷地区内の大井沢小学校、御所ヶ丘小学校、松前台小学校、3校の5年生約200名の子供達は立て看板を先頭に、立沢里山に元気に全員徒歩で集合しました。

今年は、PTA、教育委員会、取材の方々と同様よりたくさんの方が見守る中、昨年の体験実習の学習結果を生かして一番難敵の足元の武装をし、里山広場に学校別に整然と整列しました。

午前10時から鈴木代表の挨拶に続き海老原さんから田植えのやり方の説明を受けたあと、生徒代表が挨拶し、早速各学校ごとの田んぼに別れて入ります。





### 3 古代米の田植え

例年、花粉が混じらないように田植えの時期を一般の田植えとはずらしているのですが、今年は特に遅くなってしまいました。

6月23日の例会で東の隅に少しずつ植えました。

種類だけは多彩で「赤米」「黒米」「緑米」「観賞米」の4種類です。ただし大勢で植えたので、何処が何米か判らなくなっていました。

いずれ大きくなれば色、背丈などが全く違うことから困ることはありませんが、今のところは全く判別できません。



### 4 オトギリソウのお嫁入り

漢字をあてると「弟切草」とちょっと物騒な名前になります。

『花山院の時代(平安朝・10世紀ごろ)に、晴頼(はるより・せいらい)という名の鷹飼(鷹匠)がいた。神業ともいえる技術の持ち主で、鷹が傷を受けると、ある種の草を用いてたちまち治してしまった。晴頼はその薬草の名前を秘密にしていたが、弟が恋人に密かにもらしてしまった。晴頼は大いに怒り、あるうことか弟を切り捨てた。このことによってその薬草が鷹の良薬(小連翹・しょうれんぎょう)であると知れわたり、弟切草と名づけられた』『葉や花びらにも黒点があり、弟を切った時の血潮のなごりと言われている』

オトギリソウの薬効は広く、昔から薬草として大切にされてきました。外用では湿布薬として、切り傷、火傷、また痛風や神経痛に。内服では、ハーブティーとして痛風、関節炎、夜尿症、生理痛、また胃炎や膀胱疾患などにも効くとされています。中国では止血剤として内外用しています。

薬草図鑑にも火傷、切り傷、虫さされ、扁桃腺炎のうがい薬、消炎効果の入浴剤の作り方が紹介されていて、四国では全草を焼酎に漬けて薬酒とされているそうです。

立沢里山の周辺にも自生しており、7月頃になると写真のように黄色い可愛い花を咲かせます。実は、この花は元々守谷周辺にはなかったようです。聞いてみると、「立沢里山の会」がお世話になっている守谷の旧家、海老原さんのお祖母ちゃんが昔、野草の会の仲間と吾国山(笠間富士)に登ったときに、その種を持ち帰り自宅の庭に蒔いたのが、いつの間にか周辺に増えていったらしいのです。

夏祭りの日に自宅に伺っていろいろと話を聞かせていただきました。昔は薬師台あたりには大きな里山があって自然も多く、ニリンソウ、シュンランなどの山野草やゲンノショウコ、センブリなどの薬草も沢山あったそうです。

ヤマユリは守谷市の花に指定されていますが、昔は村中の何処にでも咲いていたそうです。最近では減ってしまって庭先でしか観ることが出来ません。里山を登った市道の法肩の上に見える見事なヤマユリの群落に気がつきませんか。これは海老原さんが大切に育てているもので、通りかかるほとんどの人が足を止めて眺めていきます。里山の会としても、今後このような取り組みを検討していきましょう！



ヤマユリ



オトギリソウ

9月頃になると下の写真のように、黒っぽい穂や赤い茎など、一般の田んぼにある稲とは全く違う色合いとなってきます。脱穀した初も赤や黒と不思議な感じですので、驚かないように。でも最近は健康食ブームで良く売れるそうです。

(左が黒米、右が緑米)

### 5 ホタルの出現

7月になると、立沢里山のあちこちでホタルが観られるようになってきました。奥の森の近くは暗いため比較的早くから観られますが、手前の道路周辺は明るいいため、少し遅れてしかも草むらの中程で光っています。

よく観察すると、少しずつですが離れた箇所でも確認できました。去年は気がつかないただけなのか解りませんが創造していたよりは広い範囲、多様な場所で生息しているようです。でも全体数はけっして増えているとは言えない状況なのでしばらくは見守りたいと思います。

アサヒビール工場内のビオトープにも里山の会として技術協力しているところですが、今春放流したホタル幼虫が7月初めには地上に羽化して観察できることを期待していました。



夏祭りにアサヒビールの人々が来たので聞いたところでは、確かに光っているのが観察は出来たが、それほどの規模ではなかったとのことでした。一応羽化は出来たようですので今後に期待しましょう。缶ビール片手に(もちろんアサヒビールで)夕涼みということで観察会をできると楽しそうですね。

立沢里山の環境も長期的にどうなるかは不確定な要素もあるので、危険分散として生息環境や場所を分散し多様化させておくことが大切です。

### 6 北守谷夏祭りに参加

8月18日(土)、19日(日)と今年も恒例の北守谷夏祭りに出店しました。パネル展示の他、バザー、焼きそば販売などです。

焼きそばは例年何団体かでやっているのですが、今年は里山の会だけということで、少し覚悟して仕入れ数を増やしました。テントも新品を購入して今回がお披露目です。

ところが、雨天の心配とは裏腹に、突然の猛暑となり、汗だくの作業となりました。いくら缶ビールを呑んでも冷えてきません。

焼く方もパック詰めする方も今年は皆熟練して手順は完璧なのですが、何分お客が多すぎます。夕方になると行列が出来て、必死に焼いても間に合いません。

二日間での売り上げ個数は過去最高の1800個となり、最終日はまだ並んでいる人もいましたが時間切れ、材料切れでごめんなさいとなりました。真夏の中、楽しくいい汗をかくことが出来ました。

